

5 徳島県立文学書道館 事業実績

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業などに生かし、広く県内外の人々から利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業 【経費 1,273千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	第15回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。今年度は、小説33人、脚本4人、文芸評論5人、児童文学16人、随筆59人、現代詩380人、短歌365人、俳句543人、川柳137人、連句27人の計1,569人から2,378点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。</p> <p>表彰式:平成30年2月11日                      応募者数:1,569人                      応募作品数:2,378点                      会場:ギャラリー</p>	1,272,751	-
	小計		1,272,751	0

(2) 年鑑編集・刊行事業 【経費 568千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	ことのは文庫 瀬戸内寂聴随筆集 「わが ふるさと 徳島」	<p>瀬戸内寂聴がふるさと徳島の自然や伝統芸能、ゆかりの人を描いた随筆37篇を収録した。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部                      販売価格:400円</p>	359,574	-
2	研究紀要「水脈」14号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部                      販売価格:無料</p>	207,900	
	小計		567,474	0

(3) 教育普及育成事業 【経費 3,715千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家、研究者、文化人に専門分野のお話をいただき、平和で心豊かな社会の創造について考える講座。歌人の竹安隆代氏、建築家で京都市立芸術大学講師の坂東幸輔氏、東京大学教授(社会教育学)の本田由紀氏、藍染作家で四国大学准教授の有内則子氏を迎えた計4回の講座は、いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、いずれも充実したものとなった。</p> <p>日時:平成29年4月～7月(全4回・各土曜)                      受講者数:182人                      受講料:無料                      会場:講座室</p>	418,974	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
2	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会に即したテーマと反戦にちなんだ朗読会を行った。5月「寂聴が描いた徳島」、7月「反戦」、8月「吉村萬壺『生きていくうえで、かけがえないこと』を読む」、1月「高村薫『空海』を読む」の計4回。講座生がよく内容を読み込み、伝わる朗読ができた。</p> <p>日時:平成29年5月～平成30年1月(全4回) 受講者数:136人 受講料:無料 会場:講座室</p>	7,504	0
3	文学講座 現代文学を読み解く	<p>文学作品が難解になりつつある中、話題の作品を読んで感想を語り合う講座。崔実「ジニのパズル」、今村夏子「あひる」、荻原浩「海の見える理髪店」、本谷有希子「異類婚類譚」、山下澄人「しんせかい」の5作品を取り上げた。受講生それぞれが自身の経験から多様な読み方をして、活発に意見を交わした。違った視点からの読みを知ること、より作品に深く触れることができた。</p> <p>日時:平成29年5月～平成30年1月 (全5回・各土曜) 受講者数:41人 受講料:無料 会場:講座室</p>	150,000	0
4	文学講座 若い人たちのための小説家養成講座	<p>四国大教授・佐々木義登氏による小説実作講座。現代小説を書く上で、押さえておくべきポイントについて講義した。また受講生の習作を、他の受講生と講師が講評する実践的な指導がなされた。第2回では、芥川賞作家の吉村萬壺氏をゲストに迎え、受講生・高田友季子「乾き」(2017年三田文学新人賞佳作)を講評した。</p> <p>日時:平成29年8月～平成30年3月 (全8回・各土曜) 受講者数:83人 受講料:無料 会場:講座室</p>	270,000	0
5	文学講座 親子で楽しむ絵本づくり	<p>県南に移り住み、多くの優れた絵本を生み出している梅田俊作・佳子夫妻を講師に迎え、飛び出す絵本づくりの基礎を学んだあと、折り紙や絵の具で自由に絵本づくりを楽しんだ。仕上がった絵本は1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成29年8月20日、27日(全2回・各日曜) 受講者数:42人 受講料:無料 会場:実習室</p>	136,306	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	第16回言の葉朗読会	自分の好きな文学作品を5分以内で朗読する、年1回の朗読会。今年は12組18人が朗読した。  日時:平成29年9月23日(土・祝) 受講者数:48人 受講料:無料 会場:講座室	2,400	0
7	秋の文学講演会 I	講師は作家の小山田浩子氏。物語を組み立てるのではなく、ことばの運動と力によって作る作品の元になるのは、現実で見聞きした“何か”ーそれこそが旅なのである。このような主旨によって、自身の創作の手法を語って聞かせてくれた。質疑応答では、小山田氏の芥川賞受賞作品「穴」を深く理解する方から質問などがあり、充実した講演会となった。  日時:平成29年11月12日(日) 受講者数:43人 受講料:無料 会場:ギャラリー	377,652	0
	秋の文学講演会 II	講師は作家の中島京子氏。自らの読書体験がどのように実際の創作に関わっているか、具体的なタイトルを挙げながら話していただいた。話が非常に上手な上に、朗読や会場への質問を取り入れるなど、聴衆を飽きさせない工夫があり、会場からは常に笑いや頷きなどの反応があった。講演後のサイン会には、20人ほどが列をなした。  日時:平成29年11月19日(日) 受講者数:90人 受講料:無料 会場:ギャラリー		
8	書道講座 仮名を学ぶ いろは歌	昨年度に好評だった仮名講座。はじめは恐る恐る筆を運ぶ受講生もいたが、範書や添削など、親身で充実した講師の指導でだんだんと自信と実力をつけていった。最後は半紙にいろは歌48文字を仕上げ、作品を1階ロビーに展示した。  日時:平成29年6～7月(全3回・各日曜) 受講者数:36人 受講料:無料 会場:実習室	63,036	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
9	書道講座 書道創作講座 行書	<p>行書の創作講座。半紙1/2大の用紙に漢字一字を創作した。はじめに慈雲、白隠、三輪田米山、良寛や現代書家の作品を鑑賞。それらの特徴や技法を学んだ。次に創作の手順を学んで制作。仕上げた作品を1階ロビーに展示した。どの作も味わい深く個性豊かであった。</p> <p>日時:平成29年7月(全3回) 受講者数:40人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室</p>	0	0
10	書道講座 墨色を知る	<p>墨の専門家による書道講座。墨の作り手の立場から墨色が変わる原理や方法などを詳しく解説していただいた。受講生からの墨に関する質問に丁寧に回答していただいたほか、現代作家の揮毫による色見本を例に、さまざまな墨色を紹介していただいた。また、講座の最後には実践編として墨の選び方を説明していただいた。ポイントは次の3つ。①用途や理想とする墨色を考える。②人の評判や値段だけで判断しない。③道具類との相性を考える。</p> <p>日時:平成29年7月26日(水) 受講者数:19人 受講料:無料 材料費実費 会場:実習室</p>	63,800	0
11	書道講座 外国人のための書道講座	<p>外国人を対象にした書道講座を初めて開催した。日本語に不慣れな参加者のために、当館職員による英語通訳も行った。はじめに日本の書道や漢字について簡単に話し、書道道具の名称や扱い方、筆の持ち方、書く姿勢を説明した。スクリーンを使用して基本点画を実演し、各自が練習。その後1時間ほどかけて、手本を参考に漢字一字の小作品を制作した。受講者からは「楽しかった」「また書道をやってみたい」との声があり、書道に興味をもってもらえたようであった。なお、作品は1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成29年10月28日(土)、11月5日(日) 受講者数:14人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室</p>	14,088	0
12	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	<p>毎年恒例の小学生対象の講座。伝統文化の「書き初め」にちなんで、特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って、大字作品を制作した。はじめに書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明。約1時間、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がり、作品は1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成30年1月7日(日) 受講者数:14人 受講料:無料 会場:実習室・講座室</p>	27,420	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
13	書道講座 美しい手紙	はじめに姿勢やペンの持ち方、いろは歌を練習。ポイントは「収筆を止めないで抜くこと」など。続いて連綿を練習。留意点は「さまざまな連綿法があること。連綿線が短くなる場合は続けてもよい。また、次字の一直目まで続けること」など。次に漢字仮名交じり文を練習。「文字の中心を揃えることと、仮名は小さめに」がポイント。その後、封筒の書き方、手紙の書き出しと結びの言葉を実習した。最後に便箋に仕上げ、1階ロビーに展示した。  日時:平成30年1~2月(全3回) 受講者数:37人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室	57,390	0
14	書道講座 書の鑑賞 仮名	仮名が「麩(け・日常の書き文字)」の世界で発達した和様の象徴であることや、仮名の華麗な線や散らし書きは日本人の美意識や特性がよく表れたものであることなどを確認したのち、仮名の魅力と鑑賞方法について解説した。仮名を鑑賞するポイントとしては次の5つ。①「点」(文字)、「線」(行)、「面」(作品全体)の美。②文字や点画が少なく見える。③文字と文字が緊張感を持ってつながっている。④アシンメトリーの美。⑤必然性のある構図。  日時:平成30年2月25日(日) 受講者数:86人 受講料:無料 会場:講座室	191,626	0
15	ことのは ロビーコンサート	従来の文学・書道ファンだけでなく、より多くの県民に文学書道館の存在を知ってもらい、さらに足を運んでもらって、文学・書道と音楽の深いつながりを気軽に楽しく体感してもらおうと、本年度より新たに開催した。徳島で活躍する、もしくは徳島に縁のある演奏家を招き、年6回、開催したところ、予想をはるかに超える反響があった。美しい中庭を背景に、上質の音楽を聴く喜びを、多くの聴衆が感謝とともに伝えてくれた。  日時:平成29年5月~平成30年3月 (全6回・各日曜) 入場者数:1,104人 入場料:無料 会場:ロビー	1,934,147	0
	小計		3,714,343	0

## (4) 展示事業【経費 18,886千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室  (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。京都・嵯峨野の「寂庵」を模した書齋や、心ませる日本庭園を設置している。年2回の展示替えも行った。  期間: 通年 会場: 瀬戸内寂聴記念室		- 常設展観覧料に含む
2	文学常設展 文学常設展示室  (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の文学企画展として「歌人・今井邦子～ひたむきに生きた生涯～」、「仏文学者・佐藤輝夫の軌跡」を開催した。  期間: 通年 会場: 文学常設展示室		- 常設展観覧料に含む
3	文学常設展 収蔵展示室  (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示を行った。  期間: 通年 会場: 収蔵展示室		- 常設展観覧料に含む
4	書道常設展 書道美術常設展示室  (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家を中心とした豊かな書の世界が広がる展示室。年3回の展示替えを行い、収蔵している豊富な作品などを幅広く紹介している。本年度は「貫名菘翁」「中林梧竹の行草書Ⅰ」「中林梧竹の行草書Ⅱ」を開催した。  期間: 通年 会場: 書道美術常設展示室		- 常設展観覧料に含む
5	開館15周年記念 文学特別展 寂聴と徳島  (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は徳島市に生まれ、東京女子大に入学するまで、徳島の豊かな自然や伝統芸能にふれ、教育熱心な教師や、愛情深い家族・地域の人々のもとで成長した。長じて作家となり、50代以降はふるさとへの恩返しとして、寂聴塾、徳島塾を開き、故郷の文化の向上に尽くした。それは、文学書道館建設にもつながっていった。本展では、寂聴のふるさとやゆかりの人を描いた作品をとりあげ、著書や写真とともに紹介した。また寂聴の出家を撮影した報道写真家、勝山泰佑の写真展「寂聴さんと あのとき あのひと」も関連展示として開催した。寂聴と徳島の関わりを紹介するとともに、「徳島」を再発見する機会となった。  会期: 平成29年4月8日～5月28日 45日間 入場者数: 532人 観覧料: 250円～510円 会場: 特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,285,274	149,605

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	開館15周年記念 書道特別展 小坂奇石の「かすれ」  (特別展示事業)	小坂奇石の作品の特徴である「かすれ」に着目し、館蔵品から「かすれ」が際立った作品を中心に39点を展示し、奇石の書の魅力を紹介した。展示品のうち11点は近年に寄贈された未表装作品で、本展で初公開した。作品には釈文や語句の意味などのほか「鑑賞の手引」を付し、わかりやすい解説に努めた。なお、開館15周年記念品として奇石の作品をデザインしたクリアファイルを作製し、図録とともに観覧者に配付した。  会期:平成29年6月22日～8月6日 40日間 入場者数:1,424人 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,322,505	209,800
7	文学特別展 吉村萬壺展—意味のない美しい夢  (特別展示事業)	吉村萬壺は、2001年に文学界新人賞を受賞し、作家デビューした。03年に芥川賞を受賞。14年に発表した「ボラード病」が話題になるなど、現在活躍中の作家である。父が小松島市出身で徳島とも縁が深い。本展では、直筆原稿や愛用品などを展示し、吉村の作品や生き方を紹介。また挿絵や漫画も手がける吉村の絵なども使い、小説の形になる前の“もの”をビジュアルに見せた。  会期:平成29年8月11日～9月24日 36日間 入場者数:445人 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,705,205	110,985
8	書道特別展 榭莫山—その慈愛に満ちたまなざし  (特別展示事業)	バクザン先生の名で親しまれた榭莫山を紹介する特別展。莫山の書画作品を5つに分類して33点を展示。ほかに愛用の文房具39点、題字10点を展示した。また展示品について書かれた文章を著書から抜粋して紹介、鑑賞に供した。ロビーではビデオ「榭莫山の心技」(60分)を会期中上映した。  会期:平成29年10月1日～11月12日 37日間 入場者数:1,213人 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,357,936	307,680
9	文学特別展 高村薫の見た空海  (特別展示事業)	今なお多くの人々の心の拠り所となっている弘法大師・空海。阪神淡路大震災に自宅で遭遇し、仏を想うようになったという作家・高村薫さんは日本各地を訪ね、空海の肖像を探ろうとした。高村さんが感動の連続だったというその旅の思索ドキュメント『空海』をもとに、取材時の風景写真や文章パネルを中心に、高野山や23番札所薬王寺所蔵の空海ゆかりの品々も展示し、高村さんが捉えた空海像を紹介した。  会期:平成29年12月16日～ 平成30年2月8日 40日間 入場者数:762人 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,868,327	160,775

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
10	書道特別展 巨匠 深山龍洞の仮名  (特別展示事業)	昭和を代表する仮名の巨匠・深山龍洞(1903～80年、兵庫県淡路市生まれ)の作品67点を紹介。神戸市立博物館に特別協力をいただいたほか、兵庫県立美術館、兵庫県公館の所蔵品など、主に神戸市に残る作品を借用し展示した。そのほか、深山の著書などから抜粋した「龍洞のことば」を配布し、1階ロビーでは深山が作品を揮毫する映像(約8分)を放映した。図録はB4版のカード式で作製し、実物大で掲載した作品もあり好評だった。  会期:平成30年2月14日～3月25日 35日間 入場者数:716人 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	4,050,183	217,170
11	文学企画展 歌人・今井邦子～ひたむきに生きた生涯～  (企画展示事業)	大正から昭和への激動の時代を、女流歌人として生きた今井邦子は、父の赴任先である徳島市で生まれた。幼くして父母と別れ、父の故郷・諏訪で祖父母の手で育てられた。少女時代から文学の才能を開花させ、文芸投稿誌「女子文壇」を通じ、上板町出身の生田花世とも交流した。生涯を文学一筋にひたむきに生きた今井邦子の歩みと業績を自伝的著作や折々の歌を交えながら紹介した。  会期:平成29年6月1日～7月30日 49日間 入場者数:1,216人 観覧料:100円～300円 会場:書道美術常設展示室	224,413	常設展観覧料に含む
12	書道企画展 墨ってなあに?  (企画展示事業)	子供から大人までが墨について分かりやすく学べる展覧会。小学生でも理解できる内容の解説パネルを作成し、墨の原料や製造に使用される道具、色見本などととも展示した。墨の製造方法や歴史、色の違いなども紹介したほか、会場内には、墨の匂いを嗅いだり、硯をルーペで見たりできるコーナーを設置。実物に触れながら楽しく学べる内容に、小・中学生だけでなく大人からも好評をいただいた。さらに、墨に関するクイズを実施し、抽選で40人に蒸気機関車の煤で作った墨を進呈。ロビーでは「奈良の墨づくり」(約11分)のDVDを放映した。  会期:平成29年6月22日～8月6日 40日間 入場者数:1,497人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	1,370,701	0
13	書道企画展 夏の書道収蔵品展 中林梧竹の行草書 I  (企画展示事業)	当館が収蔵している中林梧竹の行草書の中から78歳までの書21点を展示。傑作やこれまであまり公開していない作品を中心とした。とりわけ長さ250cmに及ぶ長条幅12幅は圧巻であった。なお当館の収蔵作家である貫名菘翁と小坂奇石の作品も展示した。  会期:平成29年8月8日～9月28日 46日間 入場者数:1,486人 観覧料:100円～300円 会場:書道美術常設展示室	87,480	常設展観覧料に含む

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
14	文学企画展 仏文学者・佐藤輝夫の 軌跡  (企画展示事業)	日本における外国文学研究が未熟であった頃、徳島市出身の佐藤輝夫(1899-1994年)は独力でその分野を切り開き、ヴィヨソ詩研究、ローランの歌と平家物語の比較研究、トリストラン伝説の研究などによって日本のフランス文学研究を世界水準にまで引き上げた。展示では、学者としての偉業のほか、作家や画家との豊かな交友関係、佐藤が生涯抱き続けた徳島への思いなどを、遺愛品や書簡、写真などを示しながら紹介した。  会期:平成29年11月10日～平成30年1月20日 55日間 入場者数:1,010人 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	891,360	常設展観覧料 に含む
15	書道企画展 秋・冬の書道収蔵品展 中林梧竹の行草書Ⅱ  (企画展示事業)	当館が収蔵している中林梧竹の行草書の中から79歳以降の書18点を展示。これまであまり公開していない作品を中心に、84歳筆の傑作の屏風や、没年の病中に書かれた作品などを紹介した。なお当館の収蔵作家である貫名菘翁と小坂奇石の作品も展示した。  会期:平成29年11月14日～平成30年2月11日 71日間 入場者数:1,050人 観覧料:100円～300円 会場:書道美術常設展示室	153,995	常設展観覧料 に含む
16	書道企画展 第2回 書道創作グランプリ  (企画展示事業)	小学4年生から高校生までを対象に、応募のあった583人から234人を選考(予選)。予選通過者と、招待(前年度グランプリ受賞者)を対象に11月4日、5日に本選を実施した。小中学生は各学年、高校生は各部門について、グランプリ、準グランプリ、金賞、銀賞、銅賞を決定し、12月2日から13日まで本選作品全てを展示した。また金賞受賞者以上を対象に12月10日に表彰式を実施した。  会期:平成29年12月2日～13日 10日間 入場者数:729人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	546,818	0
17	書道企画展 「今年の一字」展2017  (企画展示事業)	年末恒例の「今年の一字」展。この一年を振り返って、世相や個人的に印象に残ったことを表す漢字一字を、はがきに揮毫してもらった。4歳から83歳の方まで843点(昨年より58点増)の応募があった。今年最も多かったのは「笑」。理由は「笑顔で元気いっぱいがんばったから」「笑顔が絶えない日々であったから」など。続いて楽「毎日学校や勉強が楽しいから」、友「友情が深まったから」、新「新しいことに挑戦した一年だった」の順であった。いずれも昨年同様、上位にみられた漢字であった。  会期:平成29年12月13日～27日 13日間 入場者数:584人 観覧料:無料 会場:1階ロビー	21,265	0
	小計		18,885,462	1,156,015
	合計		24,440,030	1,156,015